

佐高・国際人ファイル



池上彰「白熱教室」 at 国連大学

高校生104名の心を動かした佐高生



8月28日、東京都渋谷区にある「国連大学」で、東日本の11都県から選ばれた高校生105名が、「男女による教育の違いはなぜ起こる」をテーマに意見を交わすフォーラムが開かれました。「国際ソロブチミストアメリカ日本東リジョン」が主催し、本校からは、**長佐和子さん**（3-1）が論文審査で選ばれ、参加しました。ジャーナリスト池上彰さんの講演、立食パーティ（名刺交換）に続いて、池上さんの進行による白熱した討論が2時間にわたって繰り広げられました。そこでの長さんの発言は、参加者の心を動かす素晴らしい内容でした。

（長さんの手記より）

池上さんがマイクを持って歩き回り、参加者105名のほぼ全員が手を挙げて発言しました。これまでに体験したことのない熱烈な積極性は圧巻で、各人が自分の意見を明確に述べている姿に感動しました。私は男女の差別について、以下のように発言しました。

母がシングルマザーで仕事を始めた時、ジェンダー（＝社会的・文化的な性）の大きな壁があり、祖母から、当時は“女の子は短大を出て結婚することが幸せ”という考えが土地の風習や文化であったと聞きました。また、カナダでの語学研修の際、ホームステイ先がシングルマザーの家であり、日本と同じ差別があることを知りました。今日、多くの参加者から“世界の子どもたちを救うため”という言葉が出ていましたが、世界の問題ではないし、日本の問題でもありません。差別は私たち一人一人の問題です。世界を変えるのではなく、変えるのは私自身です。一人一人が変わらずして世界が大きな変革を遂げるわけがないのだから。と精一杯伝えました。気がつくやうに、参加者からの大きな拍手に包まれていました。（参加者の意見で拍手が起こったのは自分だけでした。）

今回、フォーラムに参加し、「今世界がどんな人材を求めているか」を考え、「自分には何ができるか」を見つめ直しました。また、もっともっと自分から動かなくてはならないと実感しました。同世代の意見が聞け、参加して本当に良かったです。



参加者や池上さんに意見を発表する長さん（フォーラム終了後、朝日新聞から取材を受けました）